文化財調査報告書 1

埋蔵文化財分布調査報告書

立科町南部地区（町区・古町・茂田井・野方）

——昭和４６年度——

長野県北佐久郡立科町教育委員会

序　　文

人間が生活し、社会を構成し、文化をつくりあげてきた。その発展過程を探究することは、これからの未来社会を創造する上で、欠くことの出来ない要素である。

歴史時代の文化は、文献や史実によることが出来るが、人間がまだ文字をもたなかったり、普及されていない長い過去の時代は、どうしても考古学的研究にたよらねばならない。

人々の住居跡や古墳は、そうした時代を、いまに再現してくれているが、最近の急速な社会開発（道路の新設や拡張、宅地の造成、構造改善事業等々）は、この種の文化遺産を消滅しつくす憾がある。

幸にも此の度、本町出身の小林幹男氏（染谷高校教諭）の献身的な助力により、芦田、古町、茂田井を中心とした、遺跡の分布調査書が出来あがり、こゝに発表する運びとなった。

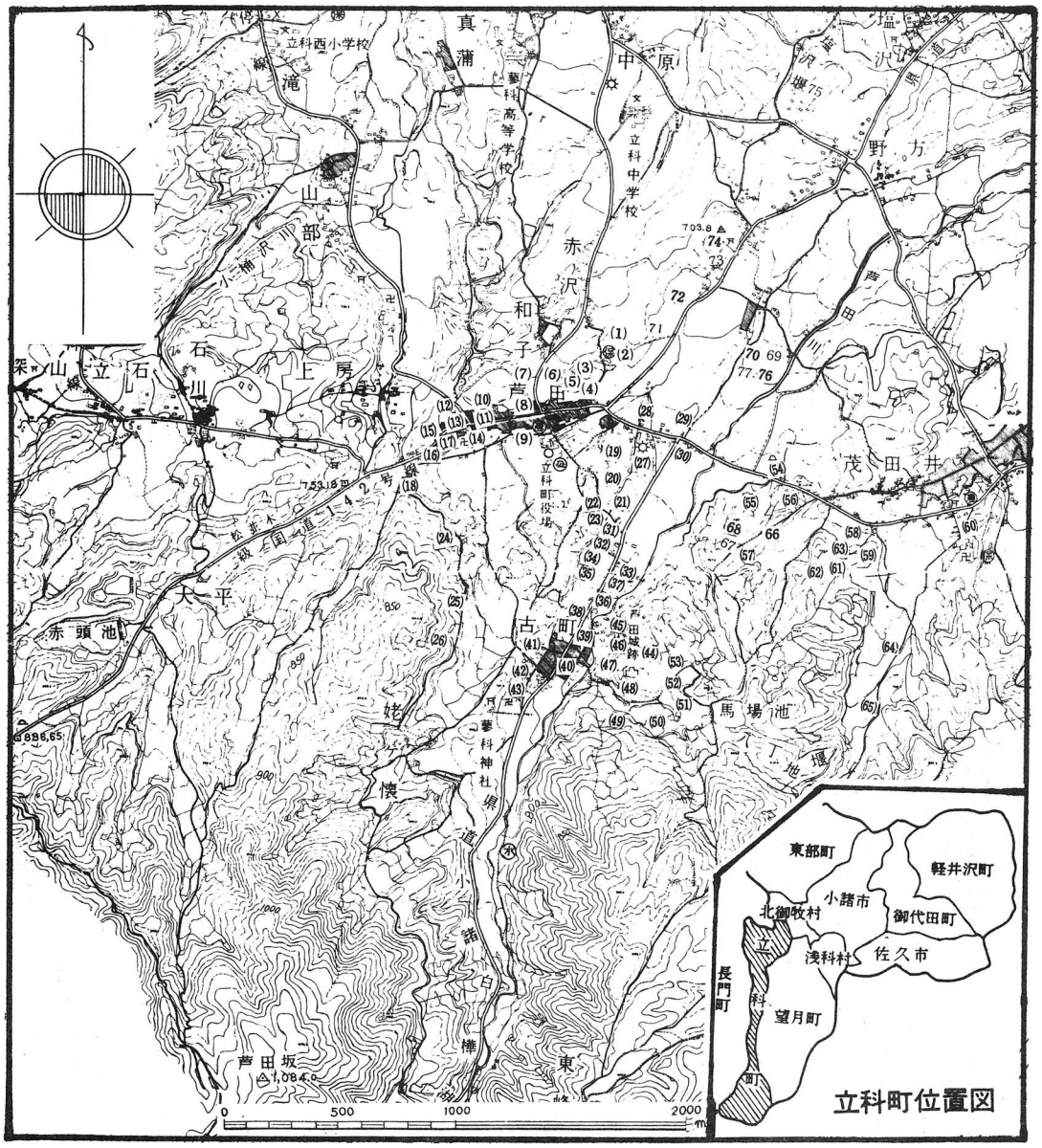
この種の調査の継続的探究により、立科町全域にわたり、有史前の文化の在り方、人々の生活の全貌を識る手がかりとしたい念願と、この道の同好の諸氏や、遺跡の破壊防止の参考になり得れば甚だ幸いである。

終りに本調査に協力された、地域の方々や文化財保護委員会、染谷高校生に深甚なる感謝の意を表する次第である。

立科町教育委員会

目　　次

序　文 …… 1
図　版
例　言 …… 10
Ⅰ　調査の目的とその経過 …… 11
Ⅱ　立科町の歴史的・地理的環境 …… 12
Ⅲ　調査の概要 …… 15
1.　町区の遺跡 …… 15
(1)東山崎Ⅰ　(2)東山崎Ⅱ　(3)北大地峯　(4)大地峯　(5)蔵前　(6)東町北屋敷添　(7)中町北屋敷添　(8)中町屋敷　(9)中町南屋敷　(10)西町北屋敷添　(11)西町屋敷　(12)上町屋敷Ⅰ　(13)上町屋敷Ⅱ　(14)峠反りⅠ（正明寺）　(15)峠反りⅡ（上房分）　(16)上石打場　(17)正明寺古墳　(18)西山ノ神　(19)伊勢裏　(20)古堂北下　(21)古堂下　(22)古堂裏Ⅰ　(23)古堂裏Ⅱ　(24)長尾根Ⅰ　(25)長尾根Ⅱ　(26)細久保
2.　中居地籍の遺跡 …… 19
(27)又旅Ⅰ　(28)又旅Ⅱ　(29)中居Ⅰ　(30)中居Ⅱ
3.　芦田古町の遺跡 …… 20
(31)古町屋敷　(32)長宝寺廃寺址　(33)大庭　(34)立石Ⅰ　(35)立石Ⅱ　(36)古町下屋敷Ⅰ　(37)古町下屋敷Ⅱ　(38)古町中屋敷Ⅰ　(39)古町中屋敷Ⅱ　(40)龍田　(41)古町西屋敷　(42)光明寺Ⅰ　(43)光明寺Ⅱ
4.　茂田井地籍の遺跡 …… 22
(44)林の上　(45)信州林　(46)砂原Ⅰ　(47)砂原Ⅱ　(48)西平　(49)木ノ宮　(50)藤塚　(51)東木ノ宮Ⅰ　(52)東木ノ宮Ⅱ　(53)馬場池下　(54)ヒノ雨塚古墳　(55)東大久保　(56)升原　(57)下弁才　(58)五輪窪　(59)中島　(60)境内添　(61)無量寺廃寺址　(62)無量寺Ⅰ　(63)無量寺Ⅱ　(64)下矢ケ入　(65)中矢ケ入　(66)中弁才　(67)細子　(68)大久保
5.　野方地籍の遺跡 …… 26
(69)松ノ木　(70)反り田　(71)上青木　(72)青木屋敷　(73)上宮地　(74)中宮地　(75)若宮反り　(76)釜石前　(77)釜石屋敷
Ⅳ　国道１４２号線バイパス工事地域内の遺跡 …… 28
Ⅴ　調査のまとめ …… 28

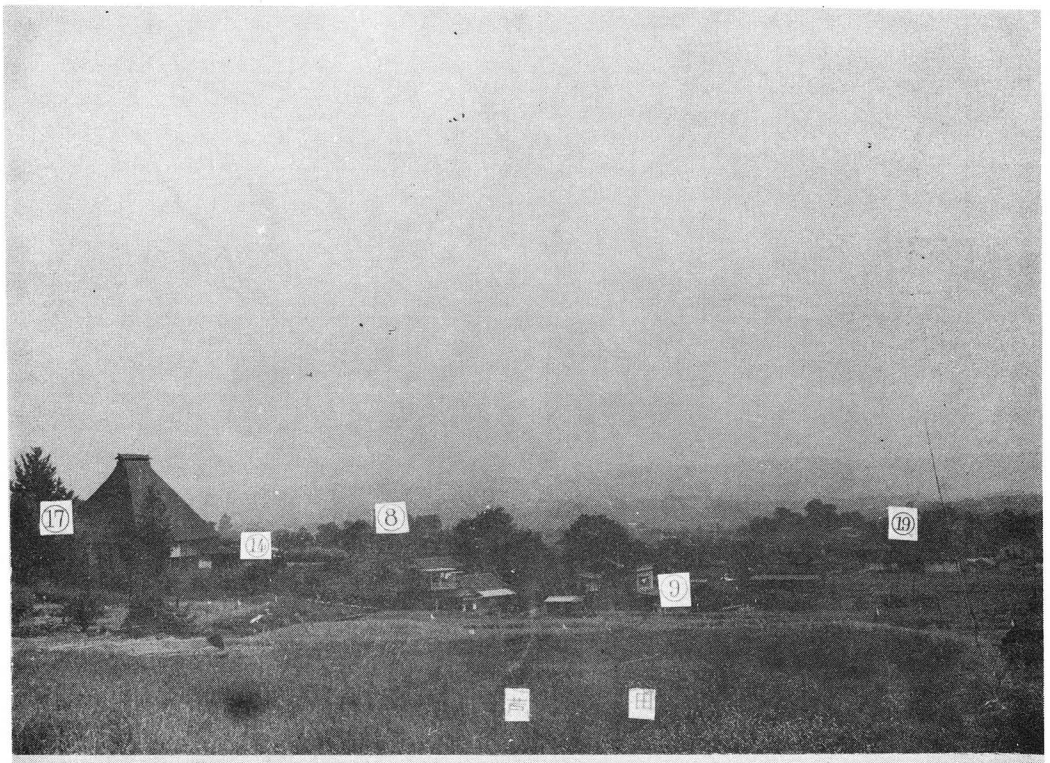


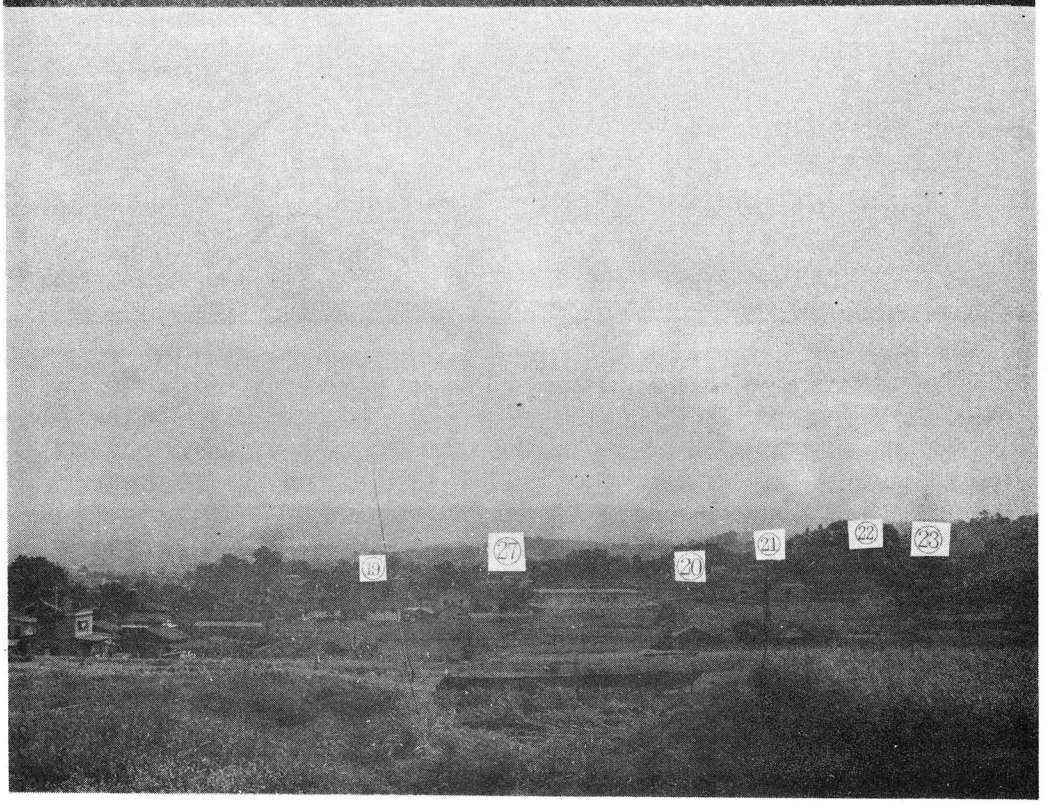
第１図 立科町南部地区(芦田町区・芦田古町・茂田井・野方)の遺跡

第１図　立科町南部地区（芦田町区・芦田古町・茂田井）の遺跡分布図

(1)東山崎Ⅰ　(2)東山崎Ⅱ　(3)北大地峯　(4)大地峯　(5)蔵前　(6)東町北屋敷添　(7)中町北屋敷添　(8)中町屋敷　(9)中町南屋敷　(10)西町北屋敷添　(11)西町屋敷　(12)上町屋敷Ⅰ　(13)上町屋敷Ⅱ　(14)峠反りⅠ（正明寺）　(15)峠反りⅡ　(16)上石打場　(17)正明寺古墳　(18)西山ノ神　(19)伊勢裏　(20)古堂北下　(21)古堂下　(22)古堂裏Ⅰ　(23)古堂裏Ⅱ　(24)長尾根Ⅰ　(25)長尾根Ⅱ　(26)細久保　(27)又旅Ⅰ　(28)又旅Ⅱ　(29)中居Ⅰ　(30)中居Ⅱ　(31)古町屋敷　(32)長宝寺廃寺址　(33)大庭　(34)立石Ⅰ　(35)立石Ⅱ　(36)古町下屋敷Ⅰ　(37)古町下屋敷Ⅱ　(38)古町中屋敷Ⅰ　(39)古町中屋敷Ⅱ　(40)龍田　(41)古町西屋敷　(42)光明寺Ⅰ　(43)光明寺Ⅱ　(44)林の上　(45)信州林　(46)砂原Ⅰ　(47)砂原Ⅱ　(48)西平　(49)木ノ宮　(50)藤塚　(51)東木ノ宮Ⅰ　(52)東木ノ宮Ⅱ　(53)馬場池下　(54)ヒノ雨塚古墳　(55)東大久保　(56)升原　(57)下弁才　(58)五輪窪　(59)中島　(60)境内添　(61)無量寺廃寺址　(62)無量寺Ⅰ　(63)無量寺Ⅱ　(64)下矢ケ入　(65)中矢ケ入　(66)中弁才　(67)細子　(68)大久保　(69)松ノ木　(70)反り田　(71)上青木　(72)青木屋敷　(73)上宮地　(74)中宮地　(75)若宮反り　(76)釜石前　(77)釜石屋敷

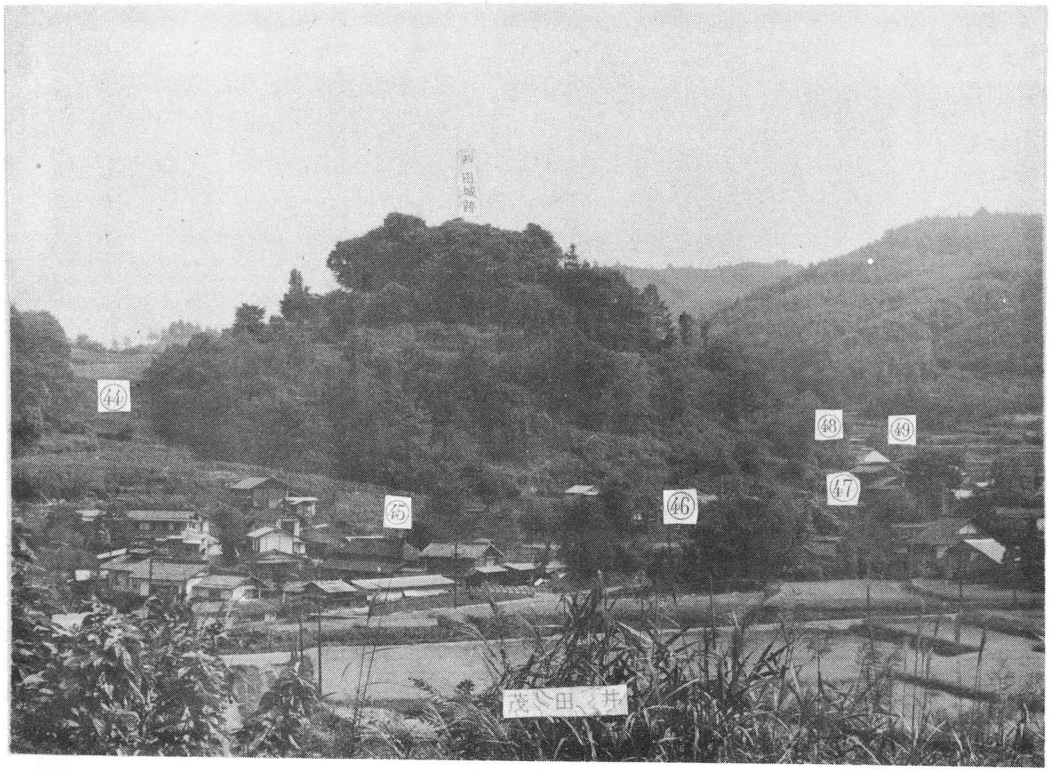
図版２

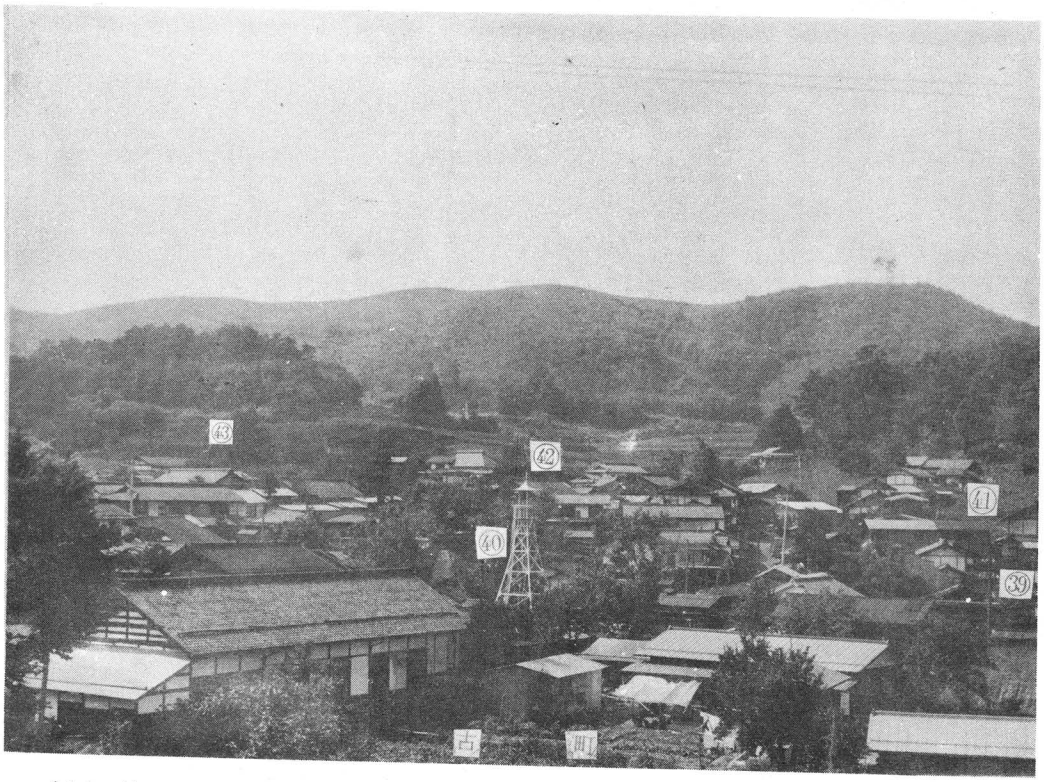




町区東南部の遺跡景観

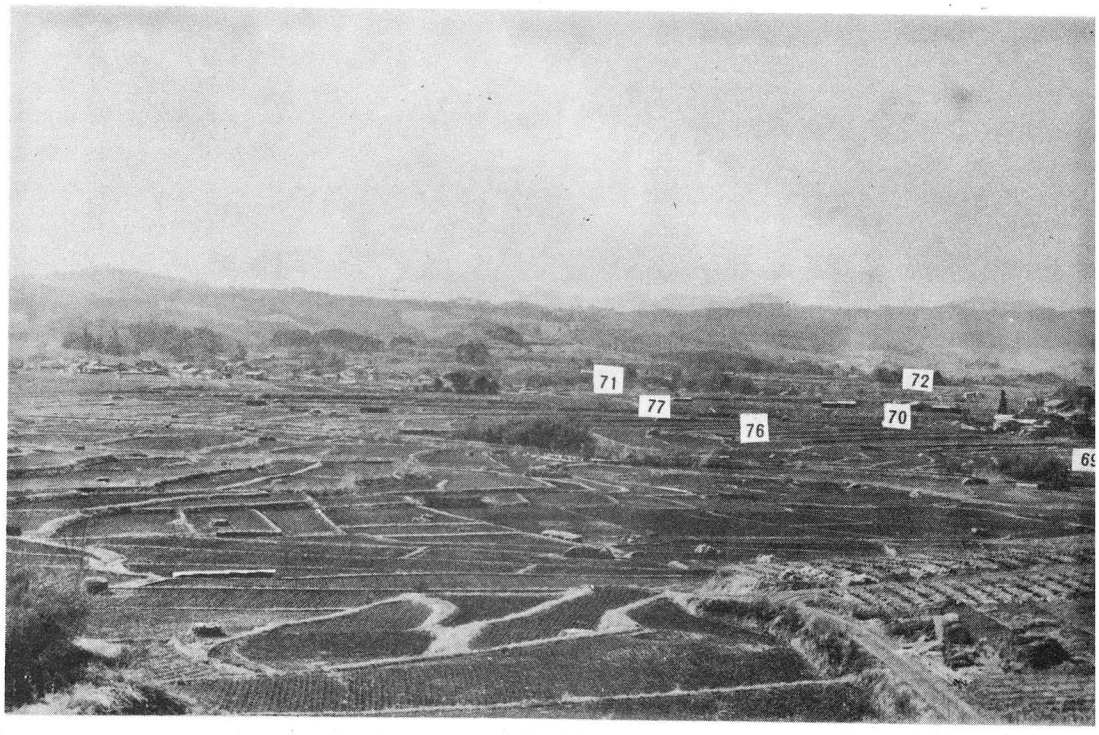
図版３



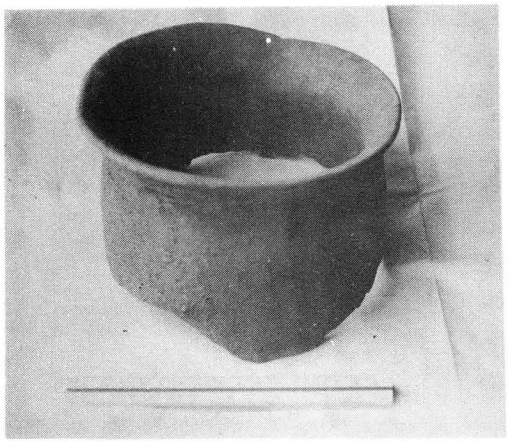


（上）茂田井地籍　（下）芦田古町の遺跡景観

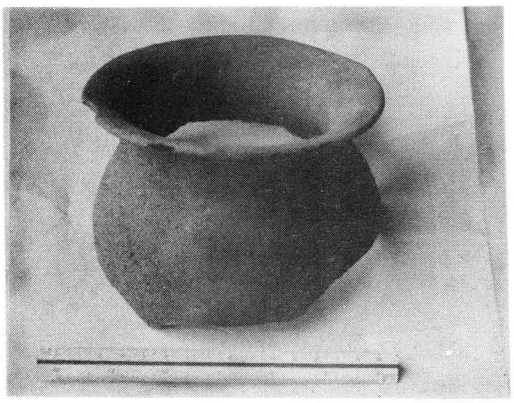
15
14
17
16
9
18


71
77
76
72
70
69

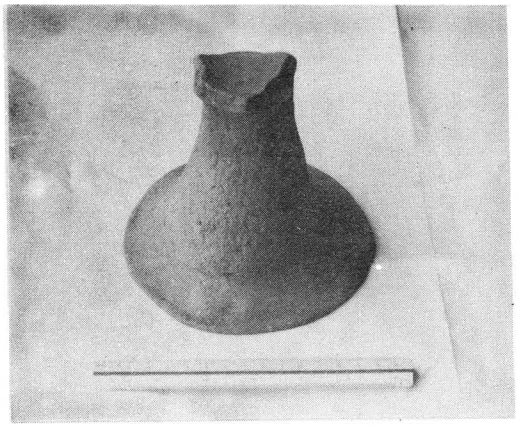
図版４



土師器（かめ）



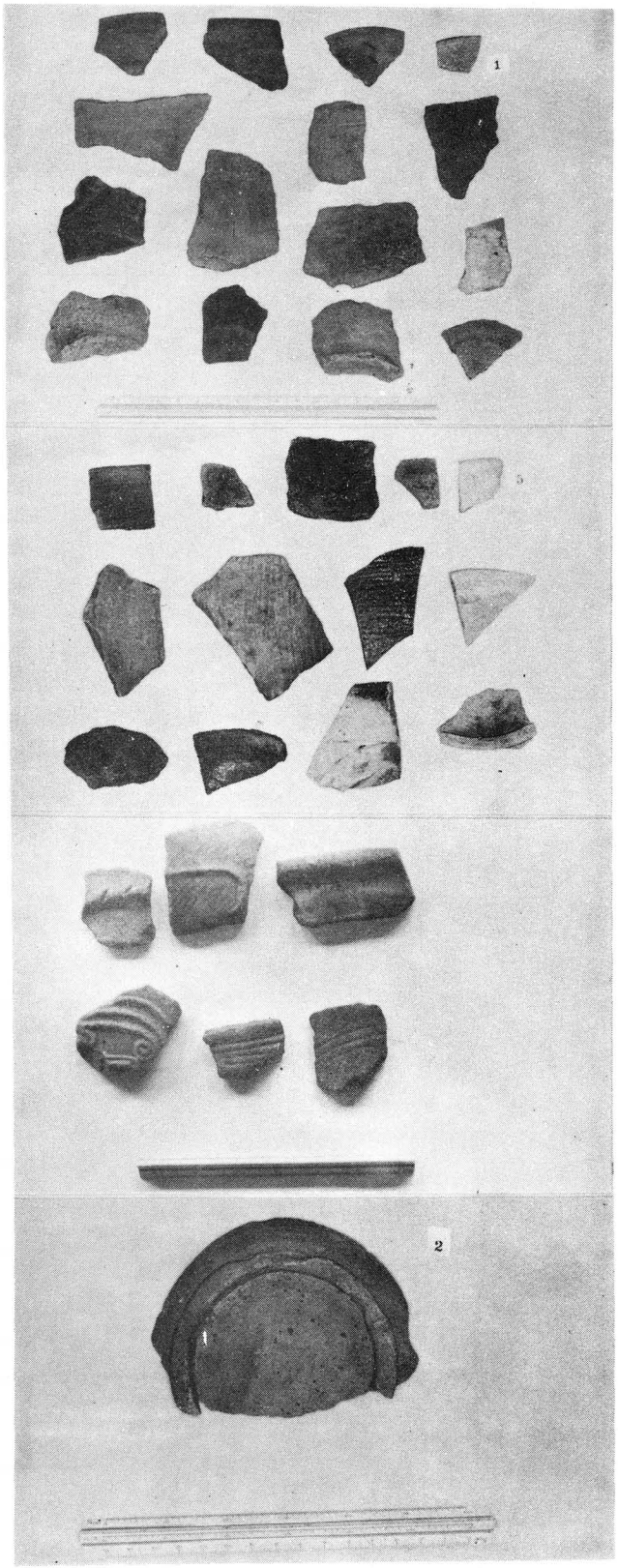
土師器（かめ）



土師器（高坏）

（又旅Ⅰ遺跡出土　南小学校蔵）

図版５



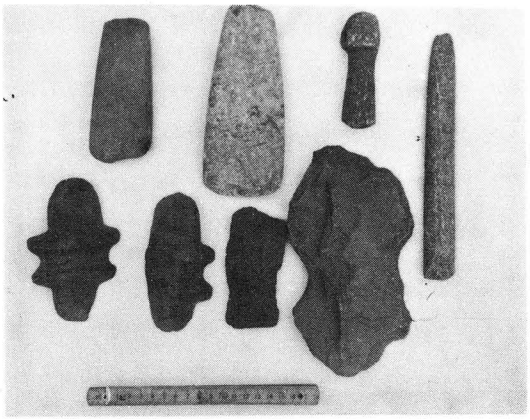
土師器と須恵器
（古町屋敷遺跡出土）

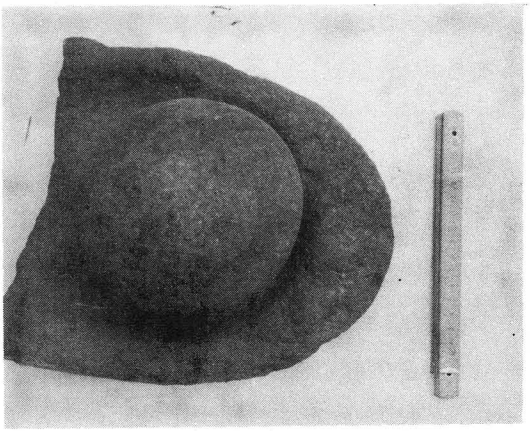
土師器と須恵器
（古堂下遺跡出土）

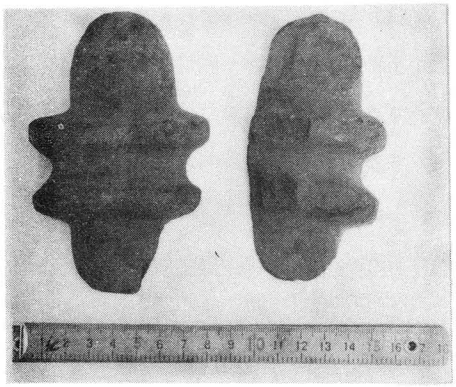
縄文土器
（中町北屋敷添遺跡出土）

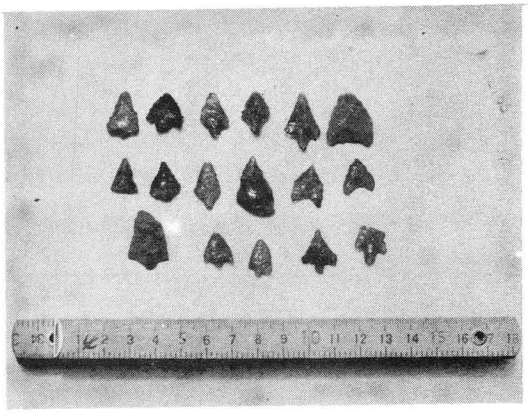
須　恵　器
（中町南屋敷添遺跡出土）

図版６









右上　磨製石斧、石棒、石剣
　　独鈷石、打製石斧
中　石皿と磨石
下　石鏃
左上　石棒
下　一鈷石
（古町下屋敷Ⅱ遺跡出場土　児玉美佐雄氏蔵）

例　　言

○　本書は昭和４６年８月１５日と１６日の２日間にわたって実施した、立科町南部地区の埋蔵文化財分布調査に関する報告である。

○　ここで南部地区と称するのは、立科町の町区・中居・茂田井地区を横断する国道１４２号線付近から南の、芦田町区・芦田古町・茂田井地区とその周辺の地域を総称したものである。

○　この調査は、国道１４２号線のバイパス工事に関連する地域内と、その周辺地域を中心に踏査した。

○　この調査は、「信濃史料」第１巻の遺跡名表と、長野県教育委員会が昭和４１年に実施した「新産都市等開発地域内埋蔵文化財緊急分布調査報告書」立科町西部地区――芦田町区の遺跡群・を基礎として、夏期の調査が可能な集落、および畑作地帯の埋蔵文化財を、立科町教育委員会が組織し、実施した。

○　本書の執筆は、「埋蔵文化財包蔵地調査カード」の作成と併せて、調査を担当した小林があたり、立科町教育委員会と協議して編集した。また、カード貼付のものを含む写真の撮影、分布図の調製も、立科町立南小学校・児玉美佐雄氏、および土地所有者の好意によって行なった。

○　今回の調査には、立科町当局をはじめ、文化財保護委員長市川日吉氏・教育長山浦克巳氏・教育委員会事務局の遠山順孝氏等の絶大な協力を得た。また、芦田古町の斎藤藤一郎氏と文化財保護委員の伊藤五郎氏（茂田井）には、炎暑の中で２日間にわたって案内と指導助言をいただいた。併せて厚く感謝申し上げる。

　また、本調査に参加し、献身的に協力した長野県上田染谷丘高等学校歴史班の諸君に、心から敬意を表するものである。

（小　林　幹　男）

Ⅰ　調査の目的とその経過

今回の調査は、国道１４２号線のバイパス工事に伴なう開発地域内と、その周辺の埋蔵文化財包蔵地の分布を踏査したものである。

調査の方法は、「新産都市等開発地域内埋蔵文化財緊急分布調査報告書」（県教委・昭和４１年度）によって、遺跡の概況が把握されている白樺湖周辺と雨境付近を除き、８月１５日に立科町の芦田町区東南から、芦田古町・茂田井古町、８月１６日に中居・茂田井・芦田町区、昭和４７年３月２８日に野方の地籍で、耕地内に立ち入って、それぞれの分布を調査した。

立科町では、今回行なわれた南部地区の分布調査に続いて、東部地区と西部地区の分布調査を実施し、全町にわたる埋蔵文化財包蔵地調査カードの作成と、分布図の調整を行ない、経済の高度成長に伴なう開発から、埋蔵文化財を保護しようとするものである。

立科町における考古学的調査は、与良清氏らの「北佐久郡志」に、若干の考察が試みられている。しかし本格的な調査は、恐らく昭和２７年６月から昭和３０年の夏にかけて行なわれた信濃史料刊行会「信濃史料」第１巻の大場磐雄博士（国学院大学教授）、永峯光一氏（日本大学講師）、樋口昇一氏（松本筑摩高校教諭）らの分布調査であろう。

これらの調査と前後して、尖石考古博物館長宮坂英弐氏らによる立科町大字立科字八ケ野の池の平遺跡（縄文早期・前期・中期・土師後期）の発掘調査が行なわれている。

その後の調査は、長野県教育委員会が、「新産都市等開発地域内埋蔵文化財緊急分布調査」を行ない、その一環として、桐原健氏を団長とする調査団が、昭和４１年１１月５日から１１月１１日わたって、白樺湖周辺・雨境峠付近・芦田古町・芦田町区・野方と中原の一部について調査を行なっている。

今回の調査は、「信濃史料」第１巻と長野県教育委員会の「新産都市等開発地域内埋蔵文化財緊急分布調査報告書」を基礎としながら、さらに未調査の地域を中心に踏査した。この調査によって前記県教委報告書所載の遺跡のほかに、芦田町区では分布図の(1)・(2)・(3)・(5)・(8)・(9)・(11)・(12)・(13)・(15)・(18)・(19)・(20)・(21)・(22)・(23)・(24)・(25)・(26)の１９遺跡を追加した。このうち(19)・(21)・(22)・(23)の４遺跡は、信濃史料第１巻の遺跡名表に記載されている。また、前記報告書(34)東町は(4)大地峯に、(35)古堂下は(5)東町北屋敷添に、(33)細久保は(15)上石打場に、それぞれの小字名に従って遺跡名を修正した。

芦田古町の調査によって、新たに追加した遺跡は、(32)・(33)・(34)・(35)・(38)・(40)・(41)・(42)・(43)の９遺跡で、茂田井古町では、(44)を除く(45)から(53)の９遺跡であった。また、前記報告

書5図Bの (23)・(24)・(27)・(28)・(29)は、地籍図の小字名と大きく位置がづれている。そして、(26)は小字名に該当するものがない。いずれも修正すべきであろう。

茂田井地籍の遺跡は、「信濃史料」第1巻所載の遺跡に加えて、(55)・(56)・(58)・(59)・(60)・(61)・(62)・(63)・(64)・(65)・(66)・(67)・(68)の13遺跡を踏査した。

野方地籍では、バイパス工事地域内の杭打ち完了を待って、昭和47年3月28日に、前年の調査を補充する意味で、分布調査を実施し、「信濃史料」所載の遺跡に加えて、(70)・(71)・(73)・(75)・(76)・(77)の6遺跡を発見した。しかし、この地籍は、バイパス工事に関連する地域と道路添いの一部を踏査したのみであるから、今後の調査で精査するならば、更に若干の遺跡を追加することになるであろう。特に今回の調査からもれている、釜石屋敷古墳と松ノ木古墳は、早急に現状を把握しておくことが必要である。

Ⅱ　立科町の歴史的・地理的環境

立科町は、長野県北佐久郡の西南部に位置し、南北に細長く、南は北緯36°05′の白樺湖付近で茅野市に接し、北は北緯36°19′付近の番屋川下流（蓼沢地籍）で、北佐久郡北御牧村に接している。

立科町は昭和30年4月に、芦田・横島・三都和の三ケ村が合併して立科村となり、昭和33年10月に町制を施行し、茂田井地区の半ばを吸収して今日に至っている。そして、その名称は、町の南にそびえる蓼科山に由来したものと思われる。

蓼科山は、標高2530.6mの火山であり、中腹以下は複輝石安山岩のコニーデで、その上に角セン安山岩のトロイデが噴出して、丸味のある頂をつくり、古くは飯盛山とも呼ばれ、また、その美しい山容に対しては、諏訪富士の美称が与えられている。

立科町の立地する台地は、佐久高原とも呼ばれ、標高およそ700～750mである。この台地には、芦田川・赤沢川・番屋川が貫流し、また、塩沢堰・宇山堰・八重原堰など、蓼科山に水源をもつ農業用水が、広大な耕地を潤おしている。

この地方の先史文化は、標高1400mの白樺湖周辺にはじまり、縄文時代の前期ころには、芦田川に沿った台地と、番屋川や赤沢川に沿った町区の台地に進出している。そして、中期から後期の縄文時代には、立科町を形成する台地の一円に広がっている。

弥生時代の遺跡は、後期の箱清水期に属するものがほとんどで、芦田川や赤沢川にのぞむ低地の

後背台地付近に分布している。

古墳時代から歴史時代の遺跡には、東山道に関係すると思われるものが多い。白樺湖畔の御座岩遺跡は、正面に蓼科山がそびえ、古代に神奈備の山を祀り、東山道の峠神を祀ったものであろう。里に下っては、雨境峠から中尾を通って谷の開ける芦田古町から中居、芦田町区と茂田井の全地域にわたって、濃密に遺跡が分布している。

次ぎに、立科町南部地区の遺跡を概観し、若干の考察を試みたい。

白樺湖周辺（御小屋之久保・御座岩・対山館・南岸）と鳴石付近（磧の河原Ⅱ）の遺跡は、ポイント（尖頭器）・ナイフ・スクレーパー（掻器）・ドリル・削器などを伴出する後期旧石器時代の先土器文化に属する。

早期縄文時代の遺跡は、白樺湖周辺の御座岩・池の平・琵琶石岩穴などがあり、まず、西日本系の山形文や穀粒文の押型文系土器文化を受容し、続いて南関東系の撚糸文土器文化が入り、田戸式・子母口式・茅山式など、同系の土器文化に受け継がれている。

前期縄文時代には、再び西方からの影響があらわれ、茂田井西南台地の下弁才・中弁才・細子・・大久保遺跡と町区の古堂下遺跡からは、白樺湖畔の御座岩遺跡と同形式の土器を出土している。この外の前期縄文時代の遺跡は、町区の中町北屋敷添・西町北屋敷添・西山ノ神などである。

中期縄文時代には、更に遺跡数が増加し、白樺湖畔の御座岩・池の平、町区の中町北屋敷添・西町北屋敷添・上房の峠反り・古町の古町屋敷・古町下屋敷Ⅰ・Ⅱなど8個の遺跡が発見されている。これらの遺跡からは、阿玉台式・勝坂式・加曾利E式など、関東系の土器文化の影響が認められる。

後期の縄文文化には、中期の土器文化にみられる関東系土器文化の影響が、受け継がれているように思われる。町区の東町北屋敷添・古堂北下・古堂下、中居の又旅Ⅰ、古町の古町屋敷・古町下屋敷Ⅰ・Ⅱ、古町中屋敷Ⅰ・Ⅱなど、9遺跡から出土する土器は、加曾利B式・堀の内式などの関東系土器である。

晩期縄文時代の遺跡は、極めて少ない。今回の分布調査では、全く発見されていないが、白樺湖畔の御座岩遺跡から、緊急分布調査（昭和41年度）の際に、4個の土器片が検出されている。

縄文文化から弥生文化への移行は、明確に把握されていない。この地方へ弥生文化が波及したのは、後期のころであろうか。中期弥生時代の遺物は、白樺湖畔の御座岩遺跡から検出された土

器片と磨製石鏃だけである。東信地方の後期弥生文化は、上田市の神川周辺と塩田平、佐久市の岩村田付近に集中し、これに続く古墳文化も、後期の遺跡が、この地域に多くみられることに注目したい。立科町南部地区の弥生遺跡は、後期の箱清水期に属する遺跡が、町区の古堂下、上房の峠反り、中居の又旅Ⅱ、古町の古町屋敷・古町下屋敷Ⅱ・古町中屋敷Ⅱ、茂田井の大久保など7個所で発見されている。

古墳時代の遺跡は、茂田井のヒノ雨塚古墳と町区の正明寺古墳、野方の釜石古墳と松ノ木古墳があり、いずれも後期の古墳である。前期の土師器は、中宮地遺跡と中居Ⅰ遺跡で発見されている。これに続いて、鬼高期の土師器が、又旅Ⅰ遺跡で検出されている。しかし、町区の東山崎Ⅰ・Ⅱ、上町屋敷Ⅰ・Ⅱ、峠反りⅠ・Ⅱ、上石打場・伊勢裏・古堂下・古堂裏Ⅰ・Ⅱ、長尾根Ⅰ・細久保、上房の峠反り、中居の又旅Ⅰ（鬼高期と複合している）・Ⅱ、古町の古町屋敷・立石Ⅰ・Ⅱ、古町下屋敷Ⅱ、茂田井の信州林、野方の青木屋敷・中宮地など、ほとんどの遺跡は、土師後期の国分期に属するものと思われる。

白樺湖畔の御座岩遺跡は、山の神・峠神をまつる古代東山道の祭祀遺跡として、昭和39年に県史蹟の指定を受けているが、ここから雨境峠に至るコースは、昭和41年度の桐原健氏を団長とする調査団が、①三本松→長門町割橋→赤沼平、途中から分れて薬研の本沢→桐陰寮→唐沢橋②県道沿いのコース、③弁天神→屋敷幅→蓼科牧場（信玄道）の三つのコースをあげ、そこから磧の河原を経て、雨境峠に向うものとしている。

この途中には、与惣塚・中与惣塚・法印塚・勾玉原など、8世紀以降にわたる貴重な遺跡がある。古代東山道の雨境峠から先は、①雨境峠→芦田古町、②雨境峠→望月の二つのコースが考えられるが、今のところ明言できる段階に至っていない。

また、町区の中町屋敷、中居の中居Ⅰ、古町の古町中屋敷Ⅰ・Ⅱ、茂田井の砂原Ⅱ・西平・藤塚・東木の宮Ⅱ・東大久保・境内添などの遺跡には、鎌倉時代以降の新しい土器が認められる。

このように、立科町の南部地区では、芦田川・赤沢川・番屋川などに沿った台地に、縄文前期のころから歴史時代にわたる長い時代の祖先の文化遺産が広く分布している。

特に、東山道に関係する遺跡は、破壊の危険性が大きく、今後全町民がこぞって、文化財保護に努めるよう期待してやまない。

Ⅲ　調査の概要

1　町区の遺跡

町区の遺跡は、国道142号線（中仙道）に沿った台地と、東方の台地に分布している。そして、二つの台地にはさまれた中間の低地を、赤沢川が北方に向って流れている。また、町区住宅街の西端付近には、番屋川が北に向って流れ、この付近から笠取峠にかかっている。国道沿いの台地は、ゆるやかに東面傾斜し、西北方に向って突出した三つの舌状の台地がある。

縄文時代の遺跡は、前期の有尾式・南大原式・黒浜式などが、町区の西端付近から中央にかけてと、県道小諸白樺湖線に沿った東南の台地などに分布している。中期の遺跡は、加曾利Ⅱ式のものが、町区の西方付近から中央にかけて分布し、後期の遺跡は、東南台地上で発見されている。

弥生時代の遺跡は、後期の箱清水式に属するものが、東南台地に分布している。

町区の遺跡の主体は、土師期の鬼高から国分期にかけてであり、台地上一帯に広く分布している。

(1)　東山崎Ⅰ遺跡　立科町大字芦田字東山崎2891～2915　5,000㎡

町区住宅街の東端付近にあたり、東北方にゆるく傾斜する舌状の台地先端部に位置している。下の低地を赤沢川が、東方から北側に迂回して流れ、前面には赤沢・野方などの広大な耕地が望まれる。表採された遺物は、土師後期の坏形と甕形土器の破片が多く、須恵器の坏形土器片なども表採されている。

(2)　東山崎Ⅱ遺跡　立科町大字芦田字東山崎2887～2890　5,000㎡

東山崎Ⅰ遺跡の南西方台地上に位置し、町立保育園が南西側にある。遺跡の一帯は、桑・薬用人参などが栽培され、表採された遺物も多い。

表採された遺物は、土師後期の坏形土器と甕形土器の破片、および須恵器片などである。

(3)　北大地峯遺跡　立科町大字芦田字大北大地峯2871～2883　6,000㎡

町区住宅街の東端台地上にあり、町立保育園から迂回して、西方に向う小道の南側に位置している。台地は緩く西面に傾斜し、北方には赤沢の集落が望まれる。

遺跡の中心部一帯には、桑が栽培されている。表採された遺物は、比較的多く、土師器と須恵器の坏形土器、および甕形土器の破片などである。

(4)　大地峯遺跡　立科町大字芦田字大地峯2855～2870　5,000㎡

国道142号線に沿った町区住宅街の東端台地上にあり、国道から分かれて保育園に向う小道の北側にあたる。

遺物の量は多く、土師器と須恵器の坏形土器や甕形土器の破片が表採されている。

(5) 蔵前遺跡　立科町大字芦田字蔵前2837～2847　5,000㎡

町区住宅街のほぼ中央東寄りの台地で、赤沢の集落に面した西斜面に位置する。西南方の窪地には、良好な湧水があり、台地には、桑が栽培されている。土師器の坏形土器と甕形土器の破片が表採されている。しかし、量は少ない。

(6) 東町北屋敷添遺跡　立科町大字芦田字東町北屋敷添2826～2834　1,200㎡

町区集落のほぼ中央にあたる東北方の台地上にあり、県道小諸白樺湖線の東沿いに位置する。台地は緩い西斜面で、近くに良質の湧水があり、東南には小さな社がある。西方の県道と遺跡の間は、低地になって水田に利用されている。

表採された遺物は、縄文後期の厚手の土器片と土師器の坏形土器、および甕形土器の破片、須恵器の台付皿形土器片などである。南小学校にも遺物が保管されている。

(7) 中町北屋敷添遺跡　立科町大字芦田字中町北屋敷添2802～2805　600㎡

県道小諸白樺湖線の西側にのびた、町区中央のテラス状の台地上にあり、縄文前期の黒浜式と縄文中期の加曾利E式の土器片が表採されている。また、土師器の坏形土器片が併出している。

(8) 中町屋敷遺跡　立科町大字芦田字中町屋敷2812　2,500㎡

国道142号線に沿った町区中央の住宅街、北方裏手にあたる台地上にあり、遺跡の範囲は、住宅街の宅地内にものびている。

表採された遺物は、土師器の坏形土器片と須恵器の台付皿・坏形土器片、および内耳土器の破片などである。

(9) 中町南屋敷添遺跡　立科町大字芦田字中町南屋敷添2476～2485　5,000㎡

町区住宅街の東南裏手にあたり、農協の前を西に登る道路とその周辺が遺跡である。昭和46年8月の道路工事中に、土師器の坏形と甕形土器の破片、須恵器の台付皿、および内耳土器片などが検出されている。

遺物の包含層は、現路面より50㎝ほど下層になる。

(10) 西町北屋敷添遺跡　立科町大字芦田字西町北屋敷添2645～2680　2,500㎡

県道芦田大屋線の東西両側にわたる、ほぼ平坦な台地上にある。遺跡の中央を小川が流れ、北東に向って扇状の窪地が展開している。

表採された遺物は、縄文前期の黒浜式と縄文中期の加曾利E式、土師器の坏形と甕形土器片などであり、中町北屋敷添遺跡とほぼ同時期の遺物を検出している。

(11) 西町屋敷遺跡　立科町大字芦田字西町屋敷2700～2726　10,000㎡

国道142号線と県道芦田大屋線が交差する地点の東側で、大部分は宅地になっている。表採できる地域は、比較的狭く、遺物の量も少ない。

表採された遺物は、土師器の坏形と甕形土器の小破片である。

(12) 上町屋敷Ⅰ遺跡　立科町大字芦田字上町屋敷2682～2690　5,000㎡

県道芦田大屋線の西側に沿った東斜面で、桑・野菜などが栽培されている。遺跡の東側には、小川が北に向って流れ、道路より少し高くなっている。

表採された遺物は、土師器国分期の坏形と甕形の土器片で、量も多く、この付近における最も有望な遺跡の一つである。

(13) 上町屋敷Ⅱ遺跡　立科町大字芦田字上町屋敷2691～2699　10,000㎡

国道142号線の南北両側にわたって分布し、町区住宅街の西端に近い地点に位置する。遺跡の中心は、西北の一段高い畑地付近で、東側に緩く傾斜し、日当たりがよい。表採された遺物の量は多く、土師器国分期の台付皿、内黒・糸切底の坏形土器片などである。

(14) 峠反りⅠ（正明寺）遺跡　立科町大字芦田字峠反り正明寺2466～2475

町区住宅街の西端付近にある正明寺の屋敷畑が遺跡である。遺跡の範囲は、比較的狭く、土師後期（国分期）の内黒・糸切底の坏形土器片と、須恵器の甕形や坏形の土器片が表採されている。

(15) 峠反りⅡ遺跡　立科町大字山部字峠反り　10,000㎡

国道142号線に沿った上房地籍の遺跡である。町区集落の西端付近に位置する台地の東斜面にあり、桑畑などに利用されている。

表採された遺物は、縄文中期の加曾利E式・弥生後期の箱清水式、土師後期国分式の内黒・糸切底の坏・甕形土器の破片などである。

(16) 上石打場遺跡　立科町大字芦田字上石打場2434～2444　900㎡

町区住宅街の西端付近にある正明寺の南東方にあたる斜面で、遺跡は宅地と野菜畑内にある。遺跡の範囲は狭く、遺物の量も少くない。

表採された遺物は、土師後期（国分期）の内黒の坏形土器片や甕形土器の破片、および須恵器の坏形土器片などである。

(17) 正明寺古墳　立科町大字芦田字峠反り正明寺　100㎡

町区西南端付近の正明寺境内屋敷畑にあり、現在は全壊して、全くその痕跡をとどめない。僅かに天井石などが撤去されて、いまも庭石として使われている。その大きさから推定すると、小型の横穴石室をもつ後期の円墳で、径は10メートル内外であったろう。恐らく、ヒノ雨塚古墳とほぼ同規模の墳丘で、野方の釜石古墳と松ノ木古墳、前記ヒノ雨塚古墳と正明寺古墳は、この地方を支配する豪族の墳墓であった。そして、これらの古墳は、広大な耕地を望む台地に、ほぼ三角形の位置関係で配置され、周辺には多くの集落が点在している。

伝えるところによれば、直刀1、勾玉7、管玉3、耳輪8、雲珠2、轡2、銅釧2などが、副葬

されていたという。（「信濃史料」B古墳 506 ページ 番号1450）

(18) 西山ノ神遺跡　立科町大字芦田字西山ノ神　1,500 ㎡

笠取峠にかかる国道 142 号線の南側に沿った一段高い桑畑が遺跡である。西側は深く窪んで、その中を番屋川が北に向って流れている。遺跡のある桑畑は、緩く東面傾斜し、周囲は水田や畑地になっている。

表採された遺物は、縄文前期の厚手土器の破片で、量も比較的多い。

(19) 伊勢裏遺跡　立科町大字芦田字伊勢裏1945～1982　10,000 ㎡

南小学校の東側にのびる台地の緩い東斜面が遺跡である。西北方の低地には、赤沢川が北に向って流れ，遺跡付近は桑畑になっている。

表採された遺物は、土師後期の坏形や甕形土器の破片であり、量は多くないが、信濃史料などにも登載され、南小学校には、遺物が保管されている。

(20) 古堂北下遺跡　立科町大字芦田字古堂北下645～655　5,000 ㎡

県道小諸白樺湖線と塩沢堰が交叉する地点の東北側に続く緩い斜面にあり、堰の西北沿いにあたる。南側の部分は、ほとんど水田になっているため、範囲を明確に把握できないが、北側は桑畑や野菜畑である。

表採された遺物は、縄文後期の土器片と土師器の坏形土器や甕形土器の破片などである。

(21) 古堂下遺跡　立科町大字芦田字古堂下633～644　5,000 ㎡

塩沢堰の東南に沿った台地で、県道小諸白樺湖線の東側にあたる。花苧や桑などが栽培されている台地上には、遺物が濃密に分布し、この付近で最も有望な遺跡である。

表採された遺物は、縄文前期の有尾式・南大原式、後期の加曾利B式土器などの破片と、弥生後期の箱清水式、土師後期の国分期の内黒・糸切底の坏形土器、台付皿形土器、須恵器の土器片などである。

(22) 古堂裏Ⅰ遺跡　立科町大字芦田字古堂裏2219～2240　1,500 ㎡

県道小諸白樺湖線を役場前から芦田古町へ向って、少し進んだところの台地の南西東側に位置する。緩く東面に傾斜し、立科観光開発株式会社の建物が、台地を削ってつくられている。

表採された遺物は、土師後期（国分期）の内黒の坏形土器と甕形土器の破片、および須恵器の坏形土器片などである。また、立科観光開発株式会社の社地造成の際には、石組かまどが発見されている。

(23) 古堂裏Ⅱ遺跡　立科町大字芦田字古堂裏2241～2618　5,000 ㎡

古堂裏Ⅰ遺跡の東南に続く地籍で、県道小諸白樺湖線の南側に沿っている。三方が小高い台地となって、遺跡はやや奥行きの深い馬蹄形の窪地になっている。

表採された遺物は、土師後期（国分期）の内黒・糸切底の坏形土器片、および甕形土器の破片、須恵器の甕形土器片などであり、量も比較的多い。

(24) 長尾根Ⅰ遺跡　立科町大字芦田字長根　5,000 ㎡

姥ケ懐付近から町区の西南にのびる丘陵の東斜面で、帯状の窪地を小川が流れている。この地籍は細久保の北北東にあたり、地元の方の通称によって．長尾根遺跡とした。

表採された遺物は、土師後期（国分式）の内黒の坏形土器片と須恵器の坏形土器の破片が微量である。

(25) 長尾根Ⅱ遺跡　立科町大字芦田字長尾根　10,000 ㎡

長尾根Ⅰ遺跡の南南東に位置し、姥ケ懐から北北東にのびる丘陵の東斜面で、桑畑や薬用人参畑などになっている。東方の窪地には、小川が北に向って流れ、立地条件には恵まれているが、遺物は少ない。

表採された遺物は、土師器の坏・高坏・甕形土器などの破片である。

(26) 細久保遺跡　立科町大字芦田字細久保4590～4610　5,000 ㎡

姥ケ懐から北北東にのびる丘陵の東斜面で、長尾根Ⅱ遺跡の南南東方に位置する。現在は桑畑などに利用されているが、表採された遺物は、土師後期国分式の内黒の坏形土器片など微量である。

2　中居地籍の遺跡

中居地籍の微地形は、西北と東南に低い台地があり、これを切るように国道142号線（中仏道）が走っている。遺跡はこの西の台地と東の微高地に集中して、縄文後期から彌生後期、古墳前期から奈良・平安の各時期にわたる長い歴史の足跡をとどめている。

集落の東南方には、芦田川がゆるやかに流れ、東方から北方にかけては、広大な水田地帯が続く良好な立地条件にある。芦田川の対岸には、ヒノ雨塚古墳があり、南方には古町地籍の濃密な遺跡群を望み、西は赤沢川をはさんで、町区台地の遺跡群に対している。

(27) 又旅Ⅰ遺跡　立科町大字芦田字又旅657～659　5,000 ㎡

県道小諸白樺湖線付近から塩沢堰に沿って東北方にのびる台地のゆるやかな東斜面に位置し、国道142号線から南を、又旅Ⅰ遺跡とした。台地は桑畑が多く、国道付近は住宅と工場敷地になっている。

この工場建設の際には、石組のかまどが発見され、その付近からは、土師器の甕形土器が発見されている。（口絵参照）

表採された遺物は、縄文後期の土器片と、土師後期国分式の坏形土器が多く、内黒・糸切底の坏が含まれている。甕形土器には、ヘラ削りの粗い整形が目立つ。須恵器には、蓋付高台の坏形土器

片があり、概して坏形土器片が多い。この遺跡は、中居地籍における最も有望な遺跡である。

(28) 又旅Ⅱ遺跡　立科町大字芦田字又旅660～677　6,000㎡

又旅Ⅰ遺跡と国道142号線をはさんで、東北方にのびる舌状の台地の緩い東南斜上に位置する。台地上には、桑や野菜などが栽培されており、遺物の量も多く、東方一帯の広い水田に対している。

表採された遺物は、彌生後期箱清水式の朱塗りの壺形・高坏形などの土器片と、土師後期の坏形・甕形・高坏形土器の破片などである。

(29) 中居Ⅰ遺跡　立科町大字芦田字中居1123～1130　12,000㎡

国道142号線に沿った中居の東南端付近から、東北方にのびる微高地上に位置し、東南方約60mのところを、芦田川が流れている。微高地をとりまく三方は、広大な水田地帯で、良好な立地条件にある。

表採された遺物は、土師器の破片、および内耳土器片で、量も豊富である。

(30) 中居Ⅱ遺跡　立科町大字芦田字中居1131～1146　300㎡

中居Ⅰ遺跡と国道142号線をはさんで、南方に続く狭小な台地である。国道沿いは、住宅の敷地となって、大きく削られている。台地上には、野菜が栽培されており、遺物は少ない。

表採された遺物は、土師器の坏形・甕形などの土器片である。

3　芦田古町の遺跡

芦田古町の遺跡は、芦田川と県道小諸白樺湖線の間の平地と、西側に続く台地の東南斜面に分布している。遺跡の分布は、たいへん濃密で、畑地のほとんどから、各期の遺物が表採される。

平地の遺跡には、縄文中期・後期、彌生後期、土師器など、各期の遺物が併出し、斜面の遺跡には、土師器が多い。白樺湖周辺から雨境峠を下り、谷間が開ける古町では、最も早く文化の黎明期を迎え、以来、数千年にわたって、長い歴史の歩みを続けてきたのである。

(31) 古町屋敷遺跡　立科町大字芦田字古町屋敷451～468　3,600㎡

県道小諸白樺湖線が右側にカーブし、古町の東端に達する手前のテラス状台地で、古堂下遺跡の南側に位置する。台地は緩い東斜面で、桑が栽培され、東南には芦田川に沿った帯状の水田地帯が望まれる。

表採された遺物は、縄文中期の加曾利E式、後期の加曾利B式、彌生後期の箱清水式、土師後期国分式の内黒・糸切底の坏・甕形土器、須恵器の坏、内耳土器の破片などである。

(32) 古御堂山長宝寺廃寺跡　立科町大字芦田字古町屋敷451～468　900㎡

県道小諸白樺湖線の南側に接するテラス状の台地上にあり、古町屋敷遺跡に隣接している。現在は墓地と桑畑になっており、墓地内には、五輪塔や梵字塔、三猿の彫られた石塔などがある。

33）大庭遺跡　立科町大字芦田字大庭622～632　3,000㎡

芦田古町の東北端付近に位置し、県道小諸白樺線から南東に入った芦田川沿いの平地にある。現在は桑畑に利用されているが、耕土も深く、表採された遺物も多い。

表採された遺物は、土師器の甕形土器の破片などである。

(34)立石Ⅰ遺跡　立科町大字芦田字立石540～550　5,600㎡

芦田古町の東北端付近に位置し、北東にのびる台地の東南斜面にある。遺跡は斜面の桑畑と平地の水田に分布しているものと推定される。

表採された遺物は、土師後期の国分期の内黒の坏、および須恵器の破片が微量である。

(35)立石Ⅱ遺跡　立科町大字芦田字立石551～561　5,600㎡

県道小諸白樺湖線に沿った芦田古町の西北に続く台地の東南斜面にあり、立石Ⅰ遺跡の南側に隣接している。斜面は桑畑になっているが、遺跡は下の水田にも続くものと思われる。

表採された遺物は、土師後期（国分式）の内黒の杯形土器片が微量である。

(36)古町下屋敷Ⅰ遺跡　立科町大字芦田字古町下屋敷573の4　10,000㎡

県道小諸白樺湖線の東南に沿った芦田古町の東北部地籍に位置し、遺跡は宅地と、それに隣接する畑地に分布している。芦田川が東南の低地を東に向って流れ、遺跡の環境は良好である。

表採された遺物は、縄文中期の加曾利E式と後期の加曾利B式土器、土師器の坏形土器片などである。

(37)古町下屋敷Ⅱ遺跡　立科町大字芦田字古町下屋敷578　5,000㎡

県道小諸白樺湖線に沿った児玉美佐雄氏宅の敷地とその周辺の畑地である。すでに耕作の折などに、多量の遺物が発見されているので、包含層は比較的浅く、かなり破壊が進んでいるものと思われるので、できるだけ早い機会に、本格的な調査が望まれる。

採集されている遺物は、縄文前期の有尾式・南大原式・縄文中期の加曾利E式、縄文後期の堀之内式などの土器片である。土器の出土量は、かなり多く、その他石棒・石剣・石冠・独鈷石・石皿・磨石・定角式磨製石斧・乳棒状磨製石斧・分銅形打製石斧・有径無径の石鏃などの石器、耳栓、彌生後期の箱清水式土器の破片、土師後期国分式土器の内黒の坏、須恵器などの破片である。

(38)古町中屋敷Ⅰ遺跡　立科町大字芦田字古町中屋敷490～510　5,000㎡

芦田古町のほぼ中央付近で、県道小諸白樺湖線の北西に続く台地の東南斜面に位置する。遺物は小破片で、量も少ない。

表採された遺物は、縄文後期の加曾利B式土器の破片と、土師器の坏・甕形土器、内耳土器の破片などである。

(39)古町中屋敷Ⅱ遺跡　立科町大字芦田字古町中屋敷511～539　5,000㎡

県道小諸白樺湖線と芦田川の中間にある平地で、芦田古町のほぼ中央に位置する。遺物の量は比較的多く、古町下屋敷Ⅱ遺跡とともに、芦田古町の代表的遺跡ということができる。

採集されている遺物は、縄文後期の加曾利B式の土器片と、打製石斧・磨製石斧・石錐・石匙・石剣・石冠などの石器、弥生後期の箱清水土器の破片、土師器・須恵器・内耳土器の小破片などである。

(40) 竜田遺跡　立科町大字芦田字竜田　2,500㎡

芦田古町のほぼ中央から、馬場池方面へ向う道路の南側で、大部分が宅地内にあり、一部が畑地になっている。東南を芦田川が流れ、遺跡はこれに沿った微高地の平地にある。

表採された遺物は、土師器と須恵器の小破片で、量も少ない。

(41) 古町西屋敷遺跡　立科町大字芦田字古町西屋敷476～477　2,500㎡

芦田古町のほぼ中央に位置し、遺跡は西北に続く台地の東南斜面にある。斜面は宅地と桑畑で、遺跡の範囲も狭い。

表採された遺物は、土師器の杯片など、微量である。

(42) 光明寺Ⅰ遺跡　立科町大字芦田字光明寺444の2　2,500㎡

芦田古町の西南端付近に位置し、光徳寺の北側に続くテラス状の台地上にある。遺跡は桑畑内にあり、遺物は小破片で、量も少ない。

表採された遺物は、内耳土器に似た焼質の新しい土師器片である。

(43) 光明寺Ⅱ遺跡　立科町大字芦田字光明寺425の2～435　5,000㎡

光徳寺の北側に隣接し、遺跡は台地の東南斜面上の桑畑内にある。遺物の量は割合多く、特色ある土師器の形式を出上する。

表採された遺物は、内耳土器の焼質に似た土師器の破片で、丹色塗彩のものもある。この塗彩された土器と同じ手法の土器が、中原の宮前遺跡から出土し、南小学校に保管されている。

4　茂田井地籍の遺跡

茂田井地籍の遺跡は、芦田川東南岸の芦田城跡付近と、国道142号線付近にのびる三つの舌状の台地を中心に分布している。

縄文時代の遺跡は、茂田井西南端の台地と中矢ケ入付近に分布し、縄文前期の有尾式・南大原式・上原式・下島式など、各期の遺物が発見されている。しかし、これに続く縄文時代の各時期と、弥生時代の遺物は、いまのところ検出されていない。

芦田城跡付近の遺跡は、施紐陶器などを伴なう新しい土師器から、中世におよぶ内耳土器などを出土している。茂田井中央に面する遺跡も、比較的新しい時代のものが多く、古墳時代後期から中

世におよぶ広範な遺跡を認めることができる。

(44) 林の上遺跡　立科町大字茂田井字林の上359～380　3,000㎡

芦田川東南岸の斜面にあり、芦田城跡の東北に位置する。遺物は小破片で、量も少なく、範囲も狭小である。

表採された遺物は、新しい土師器と須恵器の破片、および内耳土器片などである。

(45) 信州林遺跡　立科町大字茂田井字信州林310～332　2,500㎡

芦田川東南岸の斜面で、南南東に芦田城跡がある。斜面は桑畑に利用されている。地表の遺物は少ない。

表採された遺物は、土師後期（国分式）の杯と甕形土器の破片、須恵器片、灰釉の台付椀形陶器など、平安時代に比定されるものである。

(46) 砂原Ⅰ遺跡　立科町大字茂田井字砂原299～310　2,500㎡

芦田川東南岸の斜面で、背後に芦田城跡がある。周囲には農家があり、包蔵地には豆やタバコなどが栽培されている。

表採された遺物は、内耳土器に似た新しい焼質の土師器片である。

(47) 砂原Ⅱ遺跡　立科町大字茂田井字砂原311～399　2,000㎡

芦田川東南岸のテラス状の台地上にあり、南側は住宅が続き、東南の背後には、芦田城跡がある。

表採された遺物は、良質の土師器の坏と甕形土器の破片、および内耳土器片などである。

(48) 西平遺跡　立科町大字茂田井字西平271～290　3,000㎡

芦田城跡の南下に続く緩斜面で、その南側の窪地を馬場池へ向う道路が通り、脇を良質の水が流れている。斜面には、薬用人参や桑などが栽培されている。

表採された遺物は、土師器の甕形土器、および内耳土器の小破片で、量も少ない。

(49) 木ノ宮遺跡

県道小諸白樺湖線から分かれて、馬場池に向う小道が、芦田川を渡って左手に芦田城跡を望む地点の南側に広がる台地が遺跡である。台地は緩い西北斜面で、桑畑や薬用人参畑などに利用されている。表採された遺物は、小破片で量も少ないが、角形口縁の土師器の甕・坏、須恵器の坏形土器の破片などである。

(50) 藤塚遺跡　立科町大字茂田井字藤塚169～190　5,000㎡

木ノ宮遺跡の東南に位置する斜面の基部付近にある。東方には袋状の窪地があり、そこから良質の湧水が流れている。

表採された遺物は、小破片で量も少なく、桑畑の中から、内耳土器の破片が発見された。

(51) 東木の宮Ⅰ遺跡　立科町大字茂田井字東木ノ宮191～195　2,500㎡

馬場池の西方に位置し、芦田城跡の東南方に広がる斜面の上方にある。西側の窪地をはさんで、藤塚遺跡に対し、湧水が西縁を流れている。

表採された遺物は、土師器の坏と甕形土器、内耳土器の破片などである。

(52) 東木の宮Ⅱ遺跡　立科町大字茂田井字東木ノ宮196～202　5,000㎡

東木の宮Ⅰ遺跡と細い農道をはさんで、西北方に続く西斜面上に位置し、その西方に芦田城跡がある。現在は桑畑や薬用人参畑になっているが、遺物の量は少ない。

表採された遺物は、内耳土器の大破片である。

(53) 馬場池下遺跡　立科町大字茂田井字馬場池下246～261　10,000㎡

芦田城跡の東南方に位置し、東木の宮Ⅱ遺跡に隣接している。遺跡は緩い西斜面の桑畑の中にあり、土師器の坏や甕形土器、須恵器の破片などを出土している。

(54) ヒノ雨塚古墳　立科町大字茂田井字上飯名田691　100㎡

国道142号線の東北方に沿った台地の先端付近にあり、西北方約150ｍほどの低地を、芦田川が東に向って流れている。その先には、中居Ⅰ遺跡があり、広大な耕地と集落を望む絶好の位置にある。

墳丘の規模は、径9・9ｍ、高さ2・6ｍの円墳である。墳丘は比較的よく保存されているが、露出している大きな自然石は、石室の一部と推定される。

出土した遺物は、馬具と鉄刀などといわれるが、本牧小学校に保管中、行方不明となり、その詳細を知ることはできない。

(55) 東大久保遺跡　立科町大字茂田井字東大久保537　2,500㎡

国道142号線のヒノ雨塚古墳付近から、南方に分かれて進む小道の東南方に沿った馬蹄形の斜面にあり、西北方約60ｍほどを、芦田川が東に向って流れている。遺跡は野菜畑の中にあり、土師器の坏・甕形土器、須恵器の坏や内耳土器の破片などが表採されている。

(56) 升原遺跡　立科町大字茂田井字升原606～623　3,000㎡

国道142号線に沿った、茂田井西南端の台地上にあり、緩い東斜面の桑畑と宅地にわたって分布している。

表採された遺物は、土師器の杯形土器片が少量である。

(57) 下弁才遺跡　立科町大字茂田井字下弁才516ノ1　5,000㎡

升原遺跡の東側を南に向って登る小道の両側にある。遺跡は東大久保遺跡の東南にあたる台地上に位置し、桑畑や薬用人参畑になっている。遺跡は深耕によって、土器片や黒曜石屑などが露出しているので、かなり破壊されているものと思われる。

発見された遺物は、縄文前期の有尾式・南大原式・上原式・下島式などの土器片と、黒曜石製の

石鏃、打製石斧・磨製石斧・石匙・黒曜石屑などである。

(58) 五輪窪遺跡　立科町大字茂田井字五輪窪908～918　3,600 ㎡

茂田井の集落の西側にあたり、国道142号線の南側に沿った広い半田形の窪地の中央に位置する。遺跡は緩い東北斜面で、桑畑や薬用人参畑になっているが、表採された遺物は、土師器と須恵器の杯や甕形土器片などが少量である。

(59) 中島遺跡　立科町大字茂田井字中島　5,000 ㎡

国道142号線の南側に沿った茂田井中央西南の台地上に位置する。遺跡は緩い東斜面で、桑畑になっている。表採された遺物は、土師器の坏と甕形土器の破片などである。

(60) 境内添遺跡　立科町大字茂田井字境内添1566～1584　2,500 ㎡

国道142号線の南側にあたり、無量寺の門前に位置する平坦地が遺跡である。この付近を大門とも呼び、畑・水田・宅地などになっている。

表採された遺物は、土師器の甕形土器、および内耳土器の破片などである。

(61) 無量寺廃寺址　立科町大字茂田井字無量寺978　2,500 ㎡

中島遺跡の南方に続く台地に囲まれた宛状の窪地内にあり、タバコなどが栽培されている。畦畔には、五輪塔などが残り、一面に土師器がちらばっている。

窪地は東面し、来迎山無量寺の名称も、これによるという。平安時代初期の長保5年（1003年）恵心僧都の開山といわれ、その後兵火に焼かれて、明徳元年（1390年）に現在の地に移転した。

(62) 無量寺Ⅰ遺跡　立科町大字茂田井字無量寺973～990　2,500 ㎡

無量寺廃寺址の西側に隣接する遺跡であり、恐らくは無量寺に関連するものであろう。遺跡は馬蹄形の窪地の基部にあり、付近に良質の湧水がある。

表採される遺物は多くないが、土師器の杯や甕形土器の破片が採集された。

(63) 無量寺Ⅱ遺跡　立科町大字茂田井字無量寺991～1010　1,050 ㎡

無量寺廃寺址の北東に隣接する地籍で、緩い東南斜面の畑地である。この遺跡も無量寺は関連する遺跡と思われる。

表採された遺物は、土師器の杯と甕形土器の破片である。

(64) 下矢ケ入遺跡　立科町大字茂田井字下矢ケ入1039～1045　3,000 ㎡

国道142号線の茂田井中央付近から、無量寺の前を通って、細い農道を南方へのぼった右手（西北方）の桑畑が遺跡である。東方約60ｍの付近には、桜清水と呼ばれる良質の湧水がある。遺跡は緩い東北斜面で、表採された土器は、土師器の坏や甕形土器の破片なのである。

(65) 中矢ケ入遺跡　立科町大字茂田井字中矢ケ入1046～1052　5,000 ㎡

下矢ケ入遺跡の南方約50m付近にある東西を丘陵ではさまれた帯状の窪地は、水田に利用されており、東北方の緩い斜面は、中矢ケ入から矢ケ入り付近にかけて、ようやく山林地帯にかかる。

かつては多くの黒曜石屑や石鏃が発見されたといわれ、矢ケ入の名もそこからきたのであろう。しかし、現在はほとんど表採される遺物がない。

(66) 中弁才遺跡　立科町大字茂田井字中弁才　2,500㎡

下弁才遺跡の東北側に隣接する遺跡である。遺跡は台地の緩い東斜面にあり、桑畑の中に遺物が分布している。

表採された遺物は、縄文前期の南大原式・上原式・下島式などの土器片であるが、量は少ない。

(67) 細子遺跡　立科町大字茂田井字細子　1,500㎡

茂田井西端付近から南側の小道を登ると、台地の稜線に達する。この西側の平坦な畑地が遺跡で、縄文前期の半載竹管文・羽状縄文などの施文をもつ土器片が、豊富に採集される。

表採された土器片は、縄文前期の有尾式・南大原式・上原式・下島式などの諸時期に属する遺物である。

(68) 大久保遺跡　立科町大字茂田井字大久保　2,500㎡

細子遺跡の北側にあり、東大久保遺跡と稜線をはさんで南側に位置するやや急な斜面の窪地上方で、果樹・薬用人参・桑などが栽培されている。斜面には、多量の土器片があり、薬用人参畑をつくる際に石組かまどなどが発見されている。

表採された遺物は、前期縄文時代の有尾式・南大原式・上原式・下島式などの土器片と、彌生後期の箱清水式、土師器の破片などである。

5　野方地籍の遺跡

野方付近の微地形は、中居付近から芦田川に沿って北東にのびる東側の帯状台地と、県道立科小諸線に沿ってのびる帯状台地の二本の微高地が現在の集落も、ほぼこの台地上に、列状に発達している。二つの台地の中間は、帯状の水田地帯が平行してのびているが、この部分にも、若干遺物を出土する地籍がある。

しかし、遺跡は多くこの微高地上に立地し、低地は農耕地として利用されていたと思われる。

表採された遺物から推定すると、この付近に文化が開けたのは、彌生時代後期の箱清水期ごろである。彌生文化は、芦田川と赤沢川にはぐくまれた肥沃な大地に根を下ろし、後期古墳時代には、釜石古墳・松ノ木古墳などに代表される文化の華を開き、二つの台地には、土師期の集落が発達している。

(69) 松ノ木遺跡　立科町大字芦田字松ノ木　5,000㎡

芦田川に沿った低地の遺跡である。野方の東南方に位置し、水田内にある。

表採された遺物は、水田の地表で発見された土師器の杯片と須恵器の破片などである。

(70) 反り田遺跡　立科町大字芦田字反り田　2,500 ㎡

野方集落の南東方にあたる台地の畑地にあり、表採される遺物の量は少ないが、保存状態は良好と思われる。

表採された遺物は、土師器の杯や甕形土器の破片などである。

(71) 上青木遺跡　立科町大字芦田字上青木　1,500 ㎡

野方の西南端の台地上に位置し、県道立科小諸線西側沿いの緩い南西斜面が遺跡である。赤沢川が台地の南方から西側に迂回して流れ、遺跡は東山崎遺跡と対している。

表採された遺物は、土師器の甕形土器と杯の破片などである。

(72) 青木屋敷遺跡　立科町大字芦田字青木屋敷　5,000 ㎡

県道立科小諸線と塩沢堰に沿った野方集落の西南端付近に位置し、台地のほぼ平坦な畑地内が遺跡である。地表の遺物が多く、この付近における最も有望な遺跡の一つである。

表採された遺物は、土師器の杯・甕形土器の破片などである。

(73) 上宮地遺跡　立科町大字芦田字上宮地　2,500 ㎡

野方集落の中央から少し南に寄った付近の西側台地上にあり、桑畑などになっている。台地は緩く南西面に傾斜し、日当りがよく、耕土も深い。

表採された遺物は、彌生後期の箱清水式土器と土師器の杯や甕形土器の破片などである。

(74) 中宮地遺跡　立科町大字芦田字中宮地　5,000 ㎡

野方集落のほぼ中央付近にあたる台地上に位置し、神社の裏手から公民館の南側にかけて、広く遺物が認められる。この地点は、標高703.8メートルで、周辺には広大な耕地が広がっている。

表採された遺物は、彌生後期の箱清水式土器の破片と、土師器の杯や甕形土器の破片などであり、また彌生期の太形蛤刃石斧が出土したと記録されている。

(75) 若宮反り遺跡　立科町大字芦田字若宮反り　1,500 ㎡

塩沢堰に沿って野方から塩沢新田に向う道路と、野方から中原を結ぶ道路が交わる十字路の東北方にあたり、遺跡は宅地に隣接する畑地の東斜面で発見された。斜面の下は、一段下がって、東北方に広がり、水田になっている。

表採された遺物は、新しい時期に属する土師器の小破片で、量は少ない。

(76) 釜石前遺跡　立科町大字芦田字釜石前　2,500 ㎡

芦田川に沿った低地の遺跡で、松ノ木遺跡の南側に隣接し、水田に利用されている。

表採された遺物は、土師器の杯や甕形土器の破片などである。

(77) 釜石屋敷遺跡　立科町大字芦田字釜石屋敷　2,500 ㎡

反り田遺跡の南側に隣接し、釜石前遺跡とは東側で接している。野方集落の南東方にあたる台地の緩斜面にあり、桑畑などの中に、土師器片がちらばっている。

表採された遺物は、土師器の杯や甕形土器の破片などであり、量は少ない。

Ⅳ　国道142号線バイパス工事地域内の遺跡

国道142号線のバイパスは、茂田井地籍の土遠付近で立科町に入り、芦田川を渡って、野方地籍の釜石前遺跡・釜石屋敷遺跡を通り、県道立科小諸線に交わる。

芦田町区地籍では、赤沢川を渡ると、東山崎Ⅰ遺跡を通って、中町北屋敷添遺跡の北端をかすめ、西町北屋敷添遺跡に入る。ここから先は、番屋川に沿って進み、国道142号線に合する予定である。

(76) 釜石前遺跡

遺跡のほぼ中央を通るので、当然一部の破壊が予想される。しかし、低地の水田であるため、困難な調査になるであろう。

(77) 釜石屋敷遺跡

遺跡の中心を僅か南にはずれて通過する予定である。予定地域内では、土師器の小破片が微量採集された。

(1)　東山崎Ⅰ遺跡

バイパス工事によって、最も破壊度の大きい遺跡である。バイパスは、遺跡の中央を大きく掘り割って通過する予定である。保護対策を望みたい。

(10) 西町北屋敷添遺跡

東山崎Ⅰ遺跡と並んで、破壊が予想される遺跡の中では、最も豊富な遺物を出土している。バイパスは、遺跡の中心部を南北に分断して通過する予定である。当然保護対策が講ぜられなければならない。

(12) 上町屋敷Ⅰ遺跡

西町北屋敷添遺跡を通過したバイパスは、上町屋敷Ⅰ遺跡の北端をかすめて通る予定である。

Ⅴ　調査のまとめ

今回の分布調査は、既知の遺跡を含めて、国道142号線（中仙道）付近から南の、芦田町区・芦田古町・中居・茂田井地籍に限定し、これを南部地区と呼称して、全面を踏査する方法で実施し

た。この結果、最も開発等によって破壊される危険性の大きい芦田町区・芦田古町・中居地籍の住宅街に、多くの遺跡が存在することを確認した。また、今回の国道142号線のバイパス工事等開発地域内にも、貴重な資料を包蔵する遺跡が発見された。併せて、その保護対策を早急に講ぜられるよう願ってやまない。

今回の分布調査の所見から、中居の又旅Ⅰ・芦田町区の古堂下・芦田古町の古町下屋敷Ⅰ・Ⅱなどの遺跡は、今後の破壊が予想されるので、早急に学術的発掘調査を実施し、保護と保存の方法を講ずる必要があるように思われる。

また、発見された遺物は、できるだけ復元・実測などの整理が望まれる。そして、でき得れば管理のできる資料室・資料館等を設置して、一括保存が望ましい。

最後に、文化財保護に対する深い理解をもって、今回の調査を企画し、実施された立科町教育委員会と立科町文化財保護委員会に対して、心から敬意と謝意を表する次第である。また、終始調査に協力された斉藤藤一郎氏・伊藤五郎氏・上田染谷丘高等学校歴史班の諸君に、心から感謝申し上げる。

昭和47年3月2日